

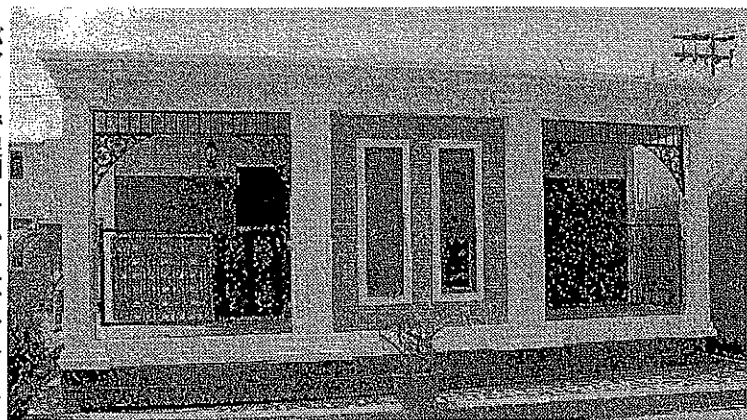
タイ企業と提携し「組み立て簡単・ローコスト」実現

「地震に強い頑強な住まいを」

シー・エフ・ネットが提案

「重量鉄骨ユニット工法」普及へ

地震に強い頑丈な住宅をローコストで。シー・エフ・ネット(CFN、横浜市港南区、倉橋隆行社長)がタイの大手企業サイアムスチールインターナショナルと提携して手がける「頑強重量鉄骨ユニット工法」が注目を集めている。サイアム社の工場で製造したユニットを輸入して組み立てるもので、品質の均一化や増・減築が容易なほか、災害に耐え得る強固な構造が最大の売り。建築コストも通常の約半分で済むなどメリットは大きい。現在バンコクでモデルハウスを展開中で、来年1月には本格スタートする。CFNでは同工法の住宅・不動産業界への普及を図る構えだ。



バンコクで展開しているモデルハウス

CFNが考えた住宅建築の構想は、地震大国・日本では不可欠な「壊れない住宅」。安全基準を考えたスチール製で、頑強・高品質と、簡素な設計でローコストという2つのコンセプトを両立するうえで、実績のあるサイアム社に注目した。

サイアム社はタイ国証券取引所上場企業で、住宅や家具など各種スチール製品を製造しており、工場規模は世界でもトップクラスを誇る。頑強重量鉄骨ユニット工法の導入においては、基礎を除く全体の80%を現地で製造。構造躯体であるスチールは高品質な日本製を使い、価格格差を活用して問題の無い物は現地調達。輸送コストも下げることでローコストという部分をクリアした。同社によると、日本国内で造ると坪70〜90万円のコストが掛かるのに対し、同工法なら坪42〜43万円に収まるといふ。

ユニットの大きさは2・5坪×6坪。これに住宅設備を付け、それらの組み合わせで住宅を形づくる。厚さ4・5坪以上の重量鉄骨を使い、ユニットが重なる部分は二重構造でさらに頑強になる。これが「日本で起こり得る地震や火災では倒壊しない」(倉橋社長)頑丈さにつながっている。簡便な作業で住宅を組み立てられ、上に積んだり逆に削るなど増築や減築が容易。資材は全てリサイクル可能で、不要になった住宅の移動や撤去

も簡単だ。台風や大雪にも耐え得るため、寒冷地など気象条件の厳しい地域でも活用できる。

「壊さない」住宅に欧米の例にならない

日本では、過去に同様の工法の住宅はあったものの、導入例は少なく、ローコストに走りすぎて質が落ちたりデザインが悪かったりと、決して普及に足る物ではなかったのが現状だ。「建てるすの繰り返した日

壊さずに済む同工法のメリットは大きい。2003〜300年と変わらない欧米の住宅に近づくと倉橋社長も強調する。

不動産コンサルタントを手がけるCFNでは「不動産業者が建築を行うことも可能になる。同工法を日本全国に普及させたい」(倉橋社長)という。同工法による住宅はCFNグループで販売するほか、不動産会社やリフォーム会社にもノウハウを提供し、売り込みを図る構えだ。

本住宅市場において、